

北見工業大学学報

第 261 号 (2014 年 1 月号)

目 次

入 試	平成 26 年度編入学試験(推薦入試)(第 2 次募集)の実施……………	3
	平成 26 年度推薦入試の実施……………	3
	平成 26 年度大学入試センター試験の実施……………	3
研 究 助 成	平成 25 年度共同研究の受入状況……………	4
	平成 25 年度受託研究の受入状況……………	4
	平成 25 年度奨学寄附金受入状況……………	4
人 事	人事異動……………	5
受 賞	社会環境工学科、富山和也助教が土木学会全国大会優秀講演者賞を受賞……………	6
	社会環境工学科、富山和也助教が第十八回舗装工学奨励賞を受賞……………	7
諸 報	大雪シンポジウム 2013 を開催……………	8
	コラボ産学官「第 9 回研究成果発表会」で研究シーズを広報……………	9
	医工連携フォーラム・市民講座を開催……………	10
	学生が訓子府町のこども教室で指導……………	11
	ブック・プロジェクトがラジオ番組に出演……………	12
	平成 26 年新年交礼会を開催……………	13
	ウインター・サイエンスキャンプ「雪と氷の世界を体験しよう」を実施……………	14
	北見市立図書館との連携……………	15
	小学校教諭を対象とした理科実験研修を実施……………	16
	「冬休み親子工作教室」の開催……………	17
「食」関連人材育成事業成果報告会「地域を彩る食物語」を開催……………	18	

	彩の国ビジネスアリーナ 2014「産学連携フェア」へ出展……………	19
	個人情報保護研修を開催……………	20
	新技術説明会 in HOKKAIDO に参加……………	21
目 誌	12月・1月……………	22

= 入試 =

平成 26 年度編入学試験（推薦入試）（第 2 次募集）の実施

（入 試 課）

平成 26 年度編入学試験（推薦入試）（第 2 次募集）を実施し、12 月 11 日（水）に合格発表を行いました。各学科別の合格者数等については下表のとおりです。

学 科	募集人員	志願者	受験者	合格者
機 械 工 学 科	7	0	0	0
社 会 環 境 工 学 科		0	0	0
電 気 電 子 工 学 科		2	2	2
情 報 シ ス テ ム 工 学 科		1	0	0
バ イ オ 環 境 化 学 科		0	0	0
マ テ リ ア ル 工 学 科		0	0	0
合 計		3	2	2

平成 26 年度推薦入試の実施

（入 試 課）

11 月 29 日（金）、平成 26 年度推薦入試を実施し、12 月 11 日（水）に合格発表を行いました。各系列の合格者数等については下表のとおりです。

系・学科		募集人員	志願者	受験者	合格者
機械・社会環境系	機械工学科	40	80	80	45
	社会環境工学科				
情報電気エレクトロニクス系	電気電子工学科	35	63	63	37
	情報システム工学科				
バイオ環境・マテリアル系	バイオ環境化学科	28	54	54	28
	マテリアル工学科				
合 計		103	197	197	110

平成 26 年度大学入試センター試験の実施

（入 試 課）

平成 26 年度大学入試センター試験が 1 月 18 日（土）、19 日（日）の両日に実施されました。本学会場の志願者数は 760 人となりました。

= 研究助成 =

平成25年度共同研究の受入状況

平成26年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	橋梁耐震補強用ストッパーの寒冷地適用研究	オイレス工業株式会社
電気電子工学科	准教授	吉澤 真吾	水中音響通信の最新動向および将来技術を想定したシミュレーション	三菱電機特機システム株式会社
バイオ環境化学科	准教授	佐藤 利次	地域資源付加価値向上6次産業人材育成事業との連携による商品化研究	企業組合北見産学医協働センター
社会連携推進センター	センター長	川村 彰	地域材循環システム構築に関する研究	企業組合北見産学医協働センター
社会連携推進センター	センター長	川村 彰	地域資源付加価値向上6次産業人材育成事業の効果に関する研究	企業組合北見産学医協働センター
電気電子工学科	教授	黒河 賢二	光ファイバへの入力パワー限界に関する検討	日本電信電話株式会社 アクセスサービスシステム研究所
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	高品質CNT合成のための合成条件検討・触媒設計	三恵技研工業株式会社 赤羽工場
社会連携推進センター	教授	有田 敏彦	精神科病院のマネジメントに関する研究	医療法人社団拓美会 玉越病院
機械工学科	准教授	松村 昌典	構造体による自然対流への影響の観測及び流れ構造の解析	北見情報技術株式会社

平成25年度累計74件

平成25年度受託研究の受入状況

平成26年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研 究 題 目	委 託 機 関	所要経費
社会環境工学科	准教授	舘山 一孝	氷況観測・予測技術等に関する研究	独立行政法人海上技術安全研究所	1,940,400 円
社会連携推進センター	センター長	川村 彰	平成25年度産学連携評価モデル・拠点モデル実証事業（モデル構築事業：食と健康に関する産学連携拠点モデル）	経済産業省	8,259,076

平成25年度累計17件

平成25年度奨学寄附金受入状況

平成26年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
電気電子工学科	教授 准教授	田村 淳二 高橋 理音	「小規模系統における出力変動電源の影響低減を目的とした協調制御に関する研究」	北海道電力株式会社	1,000,000 円
社会環境工学科	教授	高橋 清	工学研究のため	株式会社ドーコン	300,000
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	学術研究助成のため	株式会社構研エンジニアリング	400,000
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	工学研究のため	斉藤井出建設株式会社	50,000
社会環境工学科	教授	高橋 清	学術研究費	一般社団法人 北海道開発技術センター	1,000,000
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	学術研究費	一般社団法人 北海道開発技術センター	1,000,000
	学長	鮎田 耕一	学生に対する支援他	北見工業大学後援会	2,979,000

平成25年度累計47件

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	新職名(発令事項)
26. 1. 1	研究協力課副課長	齊藤 由紀子	研究協力課副課長(係長兼務)
〃	研究協力課係長	福崎 隼人	財務課主任 ※事務局職員希望降任制度による

= 受賞 =

社会環境工学科、富山和也助教が 土木学会全国大会優秀講演者賞を受賞

(社会環境工学科)

このたび、社会環境工学科・富山和也助教が、公益社団法人土木学会 平成25年度全国大会第68回年次学術講演会において、優秀講演者賞を受賞しました。この賞は、今後の発展が期待される研究発表を行った、若手研究者・技術者に贈られるものです。本講演会において、富山助教らは、加速度計を用いた簡易路面平坦性測定装置による、

市街地道路での効率的な路面モニタリング方法について発表しました。

論文題目：富山和也，川村 彰：モバイルプロフィロメータを用いたリフティングウェーブレットによる路面損傷の検出，土木学会第68回年次学術講演会，V-469，2013.



土木学会全国大会優秀講演者賞

社会環境工学科、富山和也助教が第十八回舗装工学奨励賞を受賞

(社会環境工学科)

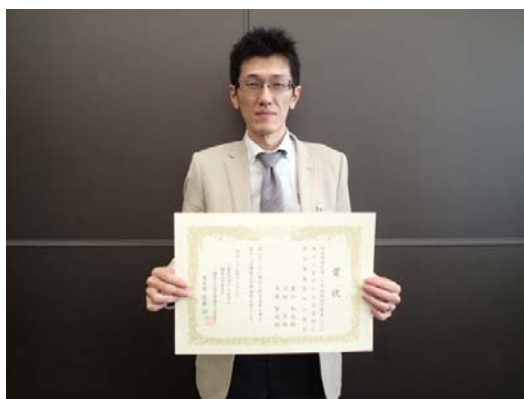
このたび、社会環境工学科・富山和也助教が、公益社団法人土木学会 舗装工学委員会より、第十八回舗装工学奨励賞を受賞しました。

同委員会では、1996年以降、年1回舗装工学講演会を開催し、同時に舗装工学論文集（土木学会論文集E1（舗装工学））を発売しています。その中から、今年度より、優秀論文賞候補の若手研究者を対象に舗装工学奨励賞を贈呈しています。

今年度は、富山助教が筆頭となり、本学社会環境工学科・川村 彰教授、株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道・大廣智則氏との共同研究成果をまとめた論文「加速度計を用いた平坦性測定装置による凍上を受けた高速道路の路面損傷箇所の特定」が、舗装工学奨励賞を受賞しました。

富山助教らは、本論文で、小型の振動加速度センサにより簡易に道路の凸凹を測定することができる装置を用い、得られた路面情報を信号処理に基づき解析することで、路面損傷を効果的に発見する方法を発表しました。本研究は、特に北海道のような寒冷地域で問題となっている、凍上が原因の路面損傷に着目しており、従来困難であった、冬期間における定量的な路面点検の効率化へ寄与するものとなっています。

社会基盤が急速に老朽化する昨今、日常的な道路点検の重要性が高まっており、簡便で効率的な路面点検技術の開発が急務となっています。本研究成果は、こうした社会的要求に応えるとともに、舗装工学における学術的な貢献が評価され、受賞に至りました。



社会環境工学科 富山助教



舗装工学奨励賞

大雪シンポジウム 2013 を開催

(バイオ環境化学科)

本学-旭川高専連携事業として平成24年12月15日(土)の旭川高専開催の第1回(大雪シンポジウム2012)に引き続き、11月30日(土)に第2回を本学にて開催しました。「化学系分野の連携」をスローガンとする本シンポジウムは、バイオ環境化学科と旭川高専物質化学工学科との共同研究実施に向けた意見・情報等の交換を目的とし、(1)両校教員による特別講演と(2)両校学生・院生のポスター発表を行うものです。(1)では、本学科青山政和教授、旭川高専高田知哉准教授がそれぞれ「シラカンバへミセルロースの酵母を用いた発酵変換」、「生物工学的応用を指向したナノカーボン利用技術の研

究について」と題して講演を行いました。(2)では、本学科学生・院生から16件、旭川高専応用化学専攻学生から14件の計30件の発表があり、西川奈那(本学科4年)さんの「メタン直接改質反応-鉄-アルミナ触媒におけるアルミナ種の影響」、今野勇司さん(旭川高専)の「イオン結合を用いたカルボキシル化多層カーボンナノチューブのアルミナガラスへの固定化」、中川健太郎さん(本学大学院博士前期課程)の「鉄触媒炭化した各種バイオマス炭化物の導電性ファイバーとしての利応用」が優秀発表賞を受賞しました。



コラボ産学官「第9回研究成果発表会」で研究シーズを広報

(社会連携推進センター)

12月6日(金)「大学、高専のイチオシシーズ！」をスローガンに、タワーホール船堀3階の産業振興センターにて「コラボ産学官『第9回研究成果発表会』」が開催されました。本学からはバイオ環境化学科の佐藤利次准教授が、「シイタケ栽培廃液を利用した環境浄化技術の開発」について研究成果を発表しました。本発表会では、本学のほか、弘前大学、信州大学、長野工業高等専門学校、群馬工業高等専門学校から研究発表が行われました。また、関東経済産業局、科学技術振興機構、東京都中小企業振興公社など6団体から、研究支援を含めた助

成金についての紹介がありました。会場には、企業や研究機関、金融、行政機関などから62人の参加があり、発表した研究者との名刺交換会も行われました。名刺交換会の中では今回本学から紹介した研究シーズをはじめ、本学で進められている研究に関し問い合わせを受けたほか、人材育成事業等の取り組みについても熱心な意見交換が行われました。東京商工会議所関係者等へのよい技術広報の機会になるものと判断しており、これからもコラボ産学官企画のイベントに参加していくこととしています。



シイタケ栽培廃液を利用した環境浄化技術について紹介する佐藤准教授

医工連携フォーラム・市民講座を開催

(社会連携推進センター)

12月12日(木)、ホテルベルクラシック北見において北見医工連携研究会主催による「医工連携フォーラム・市民講座」が開催されました。本年は共催の本学や日本赤十字北海道看護大学に加え、北海道中小企業家同友会の支援をいただき開催しました。

今回は、ナノオプティック有限会社の大工園則雄社長と本学機械工学科の鈴木聡一郎教授が講師として、「レーザーから発展したLED光医療の近未来」、「健康とソチオリンピックを目指す冬季スポーツ工学」と題し講演しました。鈴木教授は本学が取り組むプロジェクト型研究「研究ユニット」のひとつである「冬季スポーツ工学研究ユニット」の活動について、地域の特長を活かしたカーリングに関する研究を紹介すると共に、鈴木教授が取り組む日本人の骨格

に適合したスキーブーツの開発について紹介しました。開発したスキーブーツはソチ五輪のモーグル日本代表である上村愛子選手が使用しており健闘が期待されます。大工園氏はこれまでレーザーの活用で各種の治療が行われてきた事例とともに、それに代わる次世代の技術の可能性として、LED光医療の事例を多数紹介し、身近な事例として「歯のホワイトニング」などへの応用がすでになされていることを紹介しました。本学の医療工学専攻等においても研究対象として興味深いお話をいただきました。二人の講師のお話は、会場の医療関係者や研究者、そして一般市民の方々に、医療への貢献を果たす技術に対する興味と、自身の健康に対する関心を高めてもらう場となりました。



講演の様子



鈴木教授の講演



大工園氏の講演

学生が訓子府町のこども教室で指導

(社会連携推進センター)

12月14日(土)に、訓子府(くねっふ)町の教育委員会が進めている放課後こども教室「竹の子クラブ」の活動の一つ、「科学の実験遊び」が行われました。本学のバイオ環境化学科岡崎文保先生の研究室とマネジメント工学コースから、本イベントに子供たちの先生役として7人の学生が参加しました。学生が指導したのは、廃ペットボトルやCDでホバークラフトを作り空気の流れを見る実験、使い捨てコップとアルミ箔などを使い、ためた静電気を感じる実験、液体窒素で極低温の世界を覗く実験などで

す。液体窒素を使った実験では、子供たちは風船を冷やしその様子を観察したり、凍らせたバナナで釘を打ったり、クリームを滴下して瞬間アイスクリームを作ったりして遊びました。集まった30名ほどの子供たちは、目を輝かせ、普段接することの無い科学の実験遊びに熱中していました。未来を担う子供たちにとって科学に対する興味をいなく絶好の機会となったのはもちろんですが、学生たちにとっても、自分たちの知識を活かし地域に貢献できることを実感する場となりました。



「科学の実験遊び」の様子

ブック・プロジェクトがラジオ番組に出演

(情報図書課)

12月26日(木)、ブック・プロジェクトがFMオホーツクのラジオ番組「クローズアップオホーツク」に出演しました。

同番組では、月1回、北見市立図書館の職員の方が出演し、新刊書、行事等について紹介していますが、平成26年1月7日(火)から、北見市立中央図書館において、ブック・プロジェクトを含む本学学生が選書した図書が展示されることから、出演する機会を得ました。

生放送の番組であるため、本番前の打合

せから緊張していたようですが、いざ本番に入ると、リーダーの小林君(バイオ環境化学科3年)及びスタッフの相楽君(同学科3年)は、堂々とした様子で、今回の展示、ブック・プロジェクトの活動内容、本学図書館等についてしっかりとアピールしていました。

生放送のラジオ番組に出演するという貴重な体験をした彼らが、今後、ブック・プロジェクトとしてどのような活動を展開していくのか、ますます期待が高まります。



生放送前の打合せ



いざ本番

平成 26 年新年交礼会を開催

(総務課)

1月6日(月)に平成26年新年交礼会を行いました。

教職員102人がアトリウムに集まり、始めに高橋信夫理事からの新年の挨拶がありました。挨拶では、昨年行った事業の内容及

び成果、また、今年の計画及び進行中の事業についてお話がありました。挨拶の後、各々歓談を行い、終始和やかな雰囲気では終了しました。



挨拶の様子



会場の様子

ウインター・サイエンスキャンプ「雪と氷の世界を体験しよう」を実施

(学生支援課)

1月6日(月)から8日(水)まで、「雪と氷の世界を体験しよう～雪結晶から地球環境まで～」をテーマに、ウインター・サイエンスキャンプを実施しました。本事業は独立行政法人科学技術振興機構の主催による高校生を対象とした科学技術体験合宿プログラムで、本学では平成16年度から毎年実施しています。10回目となる今回は北海道から鹿児島県まで全国から20名の高校生が参加しました。

今回も屈斜路研修所を主会場として実施しましたが、参加者たちは舘山一孝准教授、原田康浩准教授、大野浩助教、山崎新太郎助教の講師陣による寒冷地ならではの専門的な講義を受けたり、屋外での実験、観測、フィールドワーク等を行ったりしました。

なかでもフィールドワークでは、摩周湖と硫黄山での絶景を眺めながら赤外カメラによる温度観測に取り組んだり、ポンポン山の登山中にはスノーシューで誰も踏み入っていない雪面に自ら進んでいき雪と戯れたり、北海道ならではの美しい銀世界を満喫しているようでした。

今回はまれにみる晴天にも恵まれたため、夜には普段は見ることのできない満天の星空が観測でき、空を見上げた参加者からはたくさんの歓声があがっていました。

講義・フィールドワークに加え最後には研究発表も行い、内容盛り沢山の3日間でしたが、参加者はプログラムに積極的に取り組み、互いの交流を深め、笑顔で各々の帰路につきました。



天気に恵まれた
摩周湖にて記念撮影



(左) 摩周湖 (右) 硫黄山での
赤外カメラによる温度観測



スノーシューで登山した
ポンポン山



グループ毎に研究を
まとめ発表



最後はかまくらで
記念撮影

北見市立図書館との連携

(情報図書課)

北見市立図書館との連携により、1月7日(火)から30日(木)まで、北見市立中央図書館において、ブック・プロジェクト及び本学の学生が選書した図書が展示されました。

「工大生が選ぶお薦め本」として、図書と共に、学生達が自ら作成したポップも展示されました。

何故その図書を選んだのか、薦める理由などをそれぞれ個性的に手書きしている点

も来館された方の目を楽しませたものと思います。

なお、今回選書した図書は、4月以降、本学図書館においても展示する予定です。

また、今後、北見市立中央図書館発行の「図書館だより オーロラ」の「あの人のおすすめ本」コーナーに、ブック・プロジェクトのスタッフが投稿する予定です。



展示の様子

小学校教諭を対象とした理科実験研修を実施

(技 術 部)

本学と北見市教育委員会との連携協力協定に基き、小学校教諭を対象とした理科実験研修を1月9日(木)に本学の物理実験室に於いて実施しました。

今回の研修は、北見市教育委員会を通じ小学校教員からの要望事項をもとにした理科実験の研修内容を設定しました。当日は、小学校教諭13名が参加し、実験概要説明の後引き続き実験が行われました。行われたのは、①手回し発電機を理解する実験、②LEDと豆電球に関する実験、③コンデンサに関する実験、④液体窒素を使用した実験等でした。どのテーマにおいても参加した先生達は生徒のようになり実験結果が出る度に一喜一憂していました。

研修実施後のアンケート集約結果は、①

研修に参加し有益であった:77%、②まあまあ良かった:15%、③有益でなかった:0%、無回答:8%の集計結果となり、概ね当初の目的を果たすことができました。今後は、この実施アンケートに書かれていた細かな意見・要望等を参考にし、より充実した教員向けの研修を実施していきたいと考えています。

今後も本学と北見市教育委員会が互いに連携しながらこのような取組を継続していくことにより、子どもたちの基礎学力が向上し、理工系人材確保・充実につなげ、ひいては地域全体の教育力アップにつながるよう、技術部もその一端を担っていきたいと考えています。



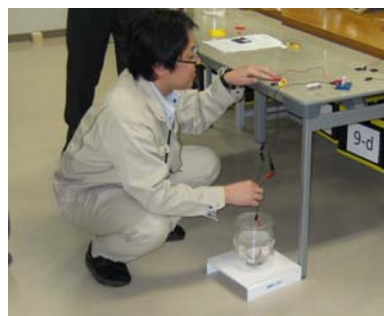
研修の様子



LEDと豆電球に関する実験



手回し発電機を理解する実験



液体窒素を使用した実験

「冬休み親子工作教室」の開催

(技 術 部)

小学生を対象とした「冬休み親子工作教室」が1月10日(金)～11日(土)の両日に開催されました。

開催の目的は、工作を通してその仕組みを知り、ものづくりの楽しさを体験してもらう点にあり、今回で3回目の実施となります。

今回は、41組の参加があり、参加者は「ガラス彫刻」「木工パズル」「キーストッカー」「ラジオ作製」の4つの中から、希望のテーマで熱心に製作に取り組んでいました。

子供たちはそれぞれ自分が手がけた完成作品を手に満足そうでした。

「冬休み親子工作教室」実施後の児童対象アンケートでは、①とても楽しかった：80%、②楽しかった：20%、③あまり楽しくなかった：0%、④ぜんぜん楽しくなかった：0%の集計結果となりました。また、保護者を対象としたアンケートでは、①子供にとっては良かったと思う：100%、②まあまあ良かった：0%、③小学生には難しいと思った：0%という集計結果を得、好評のうち終えることができました。

今回も、事故や怪我もなく無事終了することができ、今後もこの事業を継続して開催したいと考えています。



キーストッカーの製作



ガラス彫刻のデザイン製作



ラジオの製作



木工パズルの製作

「食」関連人材育成事業成果報告会「地域を彩る食物語」を開催

(社会連携推進センター)

本年で4回目となる人材育成事業北見地区成果報告「地域を彩る食物語（大学からの発信こだわりのあるおいしいもの販売!!）」が1月15日(水)から20日(月)までの期間、北見市のコミュニティプラザパラボまちきた大通ビルを会場に開催しました。本学は、農業地帯にある工業大学という利点を活かし、工学的・専門的知識に基づく「食」をキーワードとした工学的農業クリエイターの育成事業に取り組んでいます。平成18年度から5年間、(独)科学技術振興機構が実施する文部科学省科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」事業に採択され実施し、その後、オホーツク総合振興局、北見市の協力を得て同事業を継続しています。

本イベントは、食と健康、人材育成をキ

ーワードとした地域興しの意識を広く共有し、向上させることを目的として開催しました。北海道内外の「地域再生人材創出拠点の形成」事業の採択機関、道内の大学、公的試験研究機関が北見に集まり、事業内容と関連開発商品について紹介しました。15日、16日には、人材育成事業に関する「食農人材ユニット会議」を開催し、また参加機関から人材育成事業や、商品開発への取り組みについてご紹介いただく講演会を実施しました。また、人材育成事業の受講生による商品開発プレゼンテーション、開発商品の販売が行われました。これらを通して全国の大学等が地域を元気にする活動に取り組んでいることを市民含めて多くの方々に理解していただく良い機会となりました。



高橋理事の挨拶



販売会の様子



食農人材ユニット会議の様子



プレゼンテーションの様子

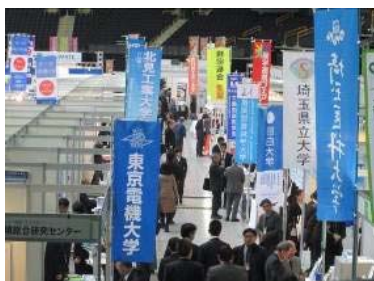
彩の国ビジネスアリーナ 2014「産学連携フェア」へ出展

(社会連携推進センター)

1月29日(水)から30日(木)の2日間、さいたまスーパーアリーナで開催された『彩の国ビジネスアリーナ2014』と同時開催の産学連携フェア2014に出展しました。彩の国ビジネスアリーナ2014は、500を超える機関が出展する国内最大級のマッチングイベントです。その中で開催される産学連携支援センター埼玉主催の「産学連携フェア2014」は東日本の大学・研究機関の最先端シーズを一堂に展示しマッチングを図る場です。今年、全国から23の大学・研究機関が参加し、北海道の大学からは本学が唯一の参加でした。社会連携推進センターでは、大学広報はもちろんのこと、北見工業大学で進められている様々な研究の成果を広く社会に伝えるための広報活動を行っています。今回の出展は、首都圏での北見工業大学の大学広報の一環として取り組みました。本学はエネルギー・環境分野に出展し、大学の紹介とともに、地域特性を活かした研究のひとつとして、社会環境工学科高橋修平教授が取り組む「牧草を断熱材として利用した雪の冷熱利用～省エネルギー雪山冷蔵

庫～」の技術について、また、埼玉県内では自動車関連の製造業が多くを占めていることから、社会環境工学科川村彰教授が取り組む「車両挙動解析による路面プロファイルのリアルタイム計測」とマテリアル工学科阿部良夫教授が取り組む「スマートウインドウ用高性能水酸化物薄膜材料」の技術について、その用途拡大に向けたマッチングを目的に展示を行いました。

1日目の展示会終了後に開催された産学連携促進交流会には、多くの企業が参加し、大学・研究機関との情報交換を行いました。会場での相談件数や交流会への参加者数は昨年度を上回っており、埼玉県内の地元企業、商工会議所などの産学連携に対する熱心さと活気を感じるフェアでした。本フェアへは関東圏の広い範囲から多くの来場があり、本学のブースにも卒業生が訪れてくれるなど、絶え間なく来場者がありました。技術広報、さらには大学広報としても参加価値の高い展示会として、今後も継続して参加していこうと考えています。



産学連携フェア2014会場



産学連携促進交流会



北見工業大学ブース

個人情報保護研修を開催

(企画広報課)

1月30日(木)、総合研究棟多目的講義室において平成25年度国立大学法人北見工業大学個人情報保護研修を実施しました。この研修は保有個人情報の取扱いについて理解を深め、個人情報の保護に関する意識の高揚を図るため毎年開催しているものです。

今回は、総務省北海道管区行政評価局第一部管理官室の井家唯之管理調査官を講師にお招きし、「情報公開法及び個人情報保

護法について」と題し、情報公開や個人情報保護の解説や注意点等について、動画を交えながらの講演を実施しました。

講演には47名の教職員が参加し、井家管理調査官の講演に各受講者も熱心に聞き入っており、本学における個人情報保護に対する意識も高まり、有意義な研修となりました。



講師の井家管理調査官



研修の様子

= 日誌 =

12 月

- 2日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 5日 教務委員会
- 8日 リーダーシップトレーニングセミナー
- 10日 入学者選抜委員会
- 11日 教授会、研究科委員会、編入学試験（第2次募集）合格発表、推薦入試合格発表
- 13日 国際交流委員会
- 18日 学術情報委員会、教育研究評議会、金曜日授業振替
- 19日 経営協議会、学長選考会議、役員会、北海道地区大学体育協議会、冬季休業日（～1月5日）
- 25日 社会連携推進センター運営会議

1 月

- 6日 集中講義期間（～9日）
- 7日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 9日 教務委員会、小学校教諭対象「理科実験研修」
- 10日 小学生対象「冬休み親子工作教室」（～11日）
- 15日 月曜日授業振替
- 17日 休講
- 18日 大学入試センター試験（～19日）
- 20日 推薦入試入学手続（～24日）、私費外国人留学生入学試験願書受付（～24日）、大学院入学試験（第2回）願書受付（～24日）
発明審査委員会
- 22日 教育研究評議会
- 24日 社会連携推進センター運営会議
- 27日 一般入試願書受付（～2月5日）
- 30日 個人情報保護研修

新技術説明会 in HOKKAIDO に参加

(社会連携推進センター)

(独) 科学技術振興機構 (以下、JST) と北海道大学産学連携本部 T L O 部門が主催する題記説明会が、1月31日(金)、北海道大学創成科学研究棟5F大会議室で開催されました。本新技術説明会は、大学、公的研究機関およびJSTの各種事業により生まれた研究成果の実用化促進を目的に、研究者が技術説明を行い、広く共同研究のパートナーや開発技術の実施企業を募る場です。今回は室蘭工業大学、国立高等専門学校機構、北海道立総合研究機構と本学が共催機関となり、「北海道の食と省エネを中心とした

新技術」に的を絞り北海道発のシーズ広報を行いました。

北見工業大学からはバイオ環境化学科中谷久之教授が、「疑似酵素システム・光照射によるプラスチック易分解化ならびにアップグレードリサイクル化」と題し、研究の成果を紹介しました。会場には事前登録だけでも60を超える機関からの来場者があり、プレゼンテーション後には、具体的な連携に関する個別相談も行われました。

研究の今後の発展に向けた有意義な広報・情報交換の場となりました。



発表する中谷教授